

公益財団法人8020推進財団平成25年度 8020公募研究報告書抄録

研究課題：住民基本台帳情報とリンケージした各種データを用いた歯周疾患検診受診者の特性に関する分析

研究者名：椎名 恵子¹⁾，浦山京子¹⁾，中村保夫¹⁾，安藤雄一²⁾

所 属：1) 江東区健康部（保健所），2) 国立保健医療科学院

【はじめに】

江東区は平成17年度に開始した健康増進法に基づく歯周疾患検診に加え、20歳から70歳までの節目年齢を対象とした独自事業「江東区歯周疾患検診」（以下、「おとなの歯科検診」という。）を実施している。多様な集団である成人のうち、どのような属性を有する層が「おとなの歯科検診」を受診しているかについては情報が不足していた。これは江東区に限らず、全国に共通する問題である。そこで、本研究では、江東区の住民基本台帳情報に、がん検診データと「おとなの歯科検診」データをリンケージしたデータを用いて相互の関連性について検討した。

【方法】

1 分析に用いたデータ

平成24年3月現在の江東区住民基本台帳データを基に、平成24年度に行われた各種検診・健診の受診者データをリンケージしたもので、住民基本台帳の基本的な情報に各種検診・健診を受診した記録などが加わった個票データで、「江東区健康増進計画」、「食育推進計画」、「がん対策推進計画」を策定するにあたり、区行政の各部門の協力を得て関連データとして収集・整理され、健康・保健・医療の基礎データ分析を試行するという位置づけで作成されたものである。

2 分析方法

おとなの歯科検診とがん検診の受診状況について、各検診の対象年齢に絞り込んだ受診率を算出し、これを性・年齢階級別に示した。次いで、おとなの歯科検診の対象年齢について、5つのがん検診の受診率を大人の歯科検診受診有無別に算出し、性・年齢階級ごとに比較した。分析に用いた統計ソフトは、Stata13である。

分析の結果、おとなの歯科検診は、女性の受診率が高く、年齢が上がるにつれて受診率も高くなる結果だった。しかし、45歳を境に受診率が下がり、再び上昇していた。今後は、未受診者の意向を把握する必要があると思われる。

また、がん検診との関係を見ると、いずれのがん検診でもおとなの歯科健診同様に女性の方が受診率が高く、またおとなの歯科検診の受診者の方が未受診者に比較して2.89から5.24倍がん検診の受診率が高かった。

【むすび】

おとなの歯科検診受診者の特性を明らかにすることを目的に、江東区の住民基本台帳情報に、がん検診データと「おとなの歯科検診」データをリンケージしたデータを用いて相互の関連性について検討した結果、おとなの歯科検診受診者は、健康づくりに関心が高く、より積極的な保健行動をとっていると推測された。そして、おとなの歯科検診の受診率を向上させるためには、通知方法の工夫や普及啓発、健康教育の充実が有効と考えられた。

今後は、引き続き未受診者の意向の把握や、各種検診・健診結果とおとなの歯科検診結果の関連等を明らかにし、歯科保健事業の充実・強化に活用していく予定である。